

平成30年度 保護者懇談会 報告	
日 時	【1回目】平成30年7月21日(土) 午後3時から4時30分まで 【2回目】平成30年8月7日(火) 午後6時から7時40分まで
場 所	平沢中学校
出席人数	(1) 保護者等 【1回目】21人 【2回目】4人 計25人 (2) 事務局 【1回目】教育部長【2回目】教育長 学務課長、学務課課長、適正配置推進室職員
内 容	(1) あいさつ (2) 学校適正配置基本方針の概要について (3) 児童生徒数の将来推計について ()は学級数 (10年後) 仲町小 89人(6) 助川小 265人(12) 平沢中 83人(3) (20年後) 仲町小 67人(6) 助川小 200人(6) 平沢中 62人(3) (4) 意見交換
【1回目 (4) 意見交換】	
<p>(質問) 現時点での統廃合の想定を教えてください。</p> <p>(教育部長) 想定は何もない。校舎の大きさや敷地面積、通学距離など、数のほかに考慮しなければならぬ事柄がある。人数の少ない方が多い方に吸収されるとは限らない。20年後に半分になることを考えると2つを1つにするだけでは足りないところも出てくるだろう。リーフレットにあるように、いろいろと配慮しなければならないことが出てくる。小学校区が変わるとすれば、コミュニティとの関りも考慮しなければならない。 まずは、保護者の意見を考えなければならないと思っている。</p> <p>(質問) 計画は、いつ頃作るのか。</p> <p>(教育部長) できるだけ早く作りたい。2～3年の間には示したい。 行政内部だけを見ても、調整すべきことが山のようにある。 市民の皆様には、改めて意見を聞く機会を設ける。教育委員会が一方的に決めるようなことはしない。</p> <p>(質問) 子どもが小さく、日立に来てからも日が浅いので状況がよくわからない。 以前にも懇談会を行ったようだが、前はどのような話が出たのか。</p> <p>(事務局) 前回(昨年度)は、保護者だけでなく地域の方も含めた地域懇談会を開催した。子育てや住宅の購入などの見通しが立たないので、スケジュールをはっきり示してほしいという</p>	

ご意見が多かった。

(教育部長)

規模の小さい学校の保護者の間には、学校が無くなってしまおうのではないかという不安があり、うわさが広まっている。

(事務局)

小さい規模の学校の地域での参加が多かったという印象がある。自分の地域の学校がどうなるのか心配だということだと思う。小さい規模でも仲良くやっているし、先生からもよく見てもらえて悪いことは何もないので、このままでよいというご意見だった。その時には、アンケートの結果からは、クラス替えができる規模がいいと考える方や、部活動のことを考えるとある程度の規模があった方がいいとの答えが多かったとお話した。また、クラスの規模についてもご意見があり、30人を切るくらいがいいという意見があった。

(質問)

これまで、日立市での統合の例はあるか。その時の保護者の意見はどのようなものか。

(事務局)

直近では、平成19年に十王の高原小学校を楡形小学校に統合している。

(質問)

その時は、学校が遠くなるということ以外に、コミュニティのことなどの問題が出たのか。

(事務局)

保護者としては、通学距離が問題だった。

高原小学校は、十王ダムの前にある小さな学校だが、最も近い学校は山部小学校だった。この学校も小規模で、そちらとの統合案も出たが、高原小の保護者の方は、人数の多いところで生活させたいとのことで、山部小より遠い楡形小との統合を選んだと聞いている。通学のためのバスなどを支援した。ある程度の規模の学校に通わせたいと考える保護者の方が多かったと理解している。

(質問)

平沢中の校舎は耐震の関係で使っていないが、今後、改修の予定はあるのか。

(事務局)

耐震診断の結果、安全性を考えて、仮校舎で生活していただいている。建て替えなどには予算もかかる。現在進めている再編計画との整合性も大切なので、再編計画に基づいて建物をどうするかを決めていく。とはいえ、仮設でいいとは思っていない。校舎の安全確保が第一なので、再編については優先的に検討する。

(意見)

子どもは小学5年生だが、入りたい部活動が平沢中にはないので、助川中に行かせようと思っている。

(事務局)

小規模校の良いところはいろいろあると思っているが、一方では課題もあって、中学校で言えば、課題の一つは部活動であると認識している。部活動は人数の関係で選択肢が狭まってしまう。保護者からも先生からも意見が出ている。大きな課題だと思っている。対策の一つとして再編があると思っている。選択肢が確保できるようにしたい。

(質問)

生徒数が、何人以下になったらなくなる(廃校になる)という基準はあるか。

(事務局)

そのような基準はない。学校再編計画の中で議論していくことになる。

部活動やクラス替え、教員配置の課題などがあって、目指す学校の規模はあるだろうということで基本方針を作った。中学校では学年3学級としており、平沢中はこれを下回っているので検討が必要だろうと考えている。下回っているから廃校にするということではない。数だけでは考えていない。

(教育部長)

今、手を打つことが大切だ。間に合わなくなる。野球やサッカーができない規模では、子どもたちに申し訳ないと思っている。

(質問)

学区の変更で人数の調整はできないか。地域から見たら平沢中は真ん中ではない。

(事務局)

手法としてはある。しかし、全体的に減っているので、一方に寄せれば、もう一方が減る。単純にはいかない。推計では、20年後には半数になってしまう。これが5%程度であれば、線引きを変えることで調整できる可能性も高くなると思う。今は、それで調整できても、20年後に半分となることを考えれば、結果としてどちらも少なくなってしまう。単純に線を引き直したただけでは問題は解決しない。

学区の変更は、特定の地区で極端に子どもが増えているということでなければ難しいといわれている。

(質問)

母校の小学校が閉校になり、寂しい思いをした経験がある。

計画の公表はいつ頃になるのか。3年後とか5年後に計画が公表されるのか。

(教育部長)

そこまで遅くはしない。できるだけ早く公表したいが、今年度中には難しい。時間をいただきたい。

(意見)

早め、早めに知らせてほしい。

(意見)

市外出身であり、子どもも小さいので、学校の状況がよく分からず、何が問題なのかも分からないので質問できない。

統合になるだろうとは思いますが、その後どうするかを話し合うことが大切なのではないか。多い方がいいとは思いますが、教育委員会や保護者、子どもとはギャップがあると思う。子どもは環境に対応する力を持っているので、数の多少ではないのではないと思う。

（事務局）

建設的なご意見をいただいた。早く、計画を示して行きたい。

（質問）

学級の人数を減らして学級を増やすことは考えないのか。学級の人数も、計画の中で示すのか。

（事務局）

自治体が独自に決めることもできる。国は小学1年生が35人、2年生以上で40人を基準にしているが、茨城県は小学2年生までを35人としている。学級の人数を少なくすれば当然学級数が増えて、その分の教員も必要になる。増える分の予算をしっかり確保していくという県の意思表示でもある。それと同じように、日立市が30人学級にすることはできるが、クラスが増える分の教員を日立市が雇用しなければならない。お金もかかるし、先生のなり手も少なく、難しい問題。今の考え方としては、国・県の基準をベースとする。

（質問）

中学校で迷っている。特に入りたい部活はないが、人数の多いところに行きたいという理由では指定校を変更できないか。

（事務局）

その理由では認められない。

（質問）

引っ越したら行けるのか。

（事務局）

その学区内に転居すれば、その学校が指定校になる。

（質問）

統合されて通学距離が延びた場合、自転車通学は考えているか。

（事務局）

市内では、小学校は許可していない。中学校では許可しているところもある。

（質問）

学区のはずれに住んでいるので、小学校でも40分かかる。統合で助川中になったら、さらに延びる。自宅からの距離など、自転車通学の基準はあるのか。

（事務局）

市内で統一した基準はない。学校ごとに許可している。坂が多いなど地区によって状況が異なるので、一律には決めていない。

(教育部長)

統合する学校での協議事項だろうと思う。通学経路の安全性も考慮しなければならない。

(意見)

市外の出身である。学校は決まったところでいいと考えている。

部活動は、学校部活動にこだわらなくてもいいと思う。

情報を小出しにしている、不足していると感じる。市報やホームページで広報されていても、積極的に見に行かない。保護者会に説明に来たりしてくれればいいと思う。

(事務局)

行政からの情報というと市報やホームページなどに頼りがち。どんな方法なら伝わりやすいかご提案いただけるとありがたい。

(意見)

予防接種のようにメールで知らせてもらえると便利だと思う。

人数が少ないと運動会や行事の盛り上がりには欠けると思う。合同で行うなど、学校同士の交流ができるといいのではないか。

(事務局)

親の立場からすると、体育祭などは多ければ迫力もあっていいと思うが、子どもは自分の学校しか経験していないので、少ない中でも達成感を感じながら取り組んでいる。先生とも関係が近く、一緒になって悔しがったりしている。工夫が必要だと思う。

現在の部活動では、野球やサッカーなどは合同チームで試合に出たりしている。工夫しながら、子どもたちのやりたいことを実現させていきたい。

以上

【2回目 (4) 意見交換】

(意見)

クラスに5人しかいない幼稚園に通っている。小学校でクラスの人数が増え、なじめるか心配。平沢中の雰囲気はよいと聞いている。住まいは助川中と平沢中の中間辺りで、中学生はよく挨拶をしてくれる。

(意見)

平沢中学区に住んでいる。10年後の子どもの数は少なくなるが、できれば平沢中に行きたいと思っている。自身は学年2学級の学校出身だが、可もなく不可もなかった。仮に1学級だったらと考えると、全学年で一緒に活動できればいいと思う。人が少なくても学級の質が良ければいい関係が作れる。先生の質を高めてもらえればクリアできると思う。

(意見)

周りに同年代の子どもがいない。

平沢中が無くなるとよく聞く。平沢中の周りの子どもたちは、駒王中や助川中では国道を渡らなければならず遠い。平沢中がいいと聞いていて学区内に家を買った。無くなるの

であれば中学受験を考えようかと思う。

自身の出身校は7～8学級あった。

娘なので、いろいろ心配なことが多い。人数より通学距離が気になる。

(意見)

自身は仲町小で3クラスあっても少ないと感じていたのに、現在1クラスで20人程度と聞いて不安になった。当たりの学年だったら6年間を楽しく過ごせるが、何かあってもクラス替えの期待もない。合う人、合わない人がいて、揉まれて成長したほうがよい。40人の1クラスより20人の2クラスがよい。

中学生の甥は、部活が成立していないと言っていた。最低人数もないと聞いて驚いた。建物の維持費もかかるし、プレハブ校舎も地震などがあたら心配。

伝統があるから無くせないと言っているのを聞くと、伝統の意義も分かるが、伝統を維持するために今の子どもたちの環境を整えられないのは疑問だ。何が大切なのかを考えると、100周年を節目に統合するという選択肢もあるのではないか。

学校分布からも、この辺りは学校が多い。那珂市に住む友人から、小学1年生でも1時間くらい歩いて登校していると聞くと、15分くらいで通える日立は恵まれていると思う。統合で倍になっても、その子たちの半分。どこかで取捨選択することが必要だ。

(事務局)

通学距離は、どのくらいが妥当と考えるか。

(意見)

小学校も中学校も近い所に家を建てた。幼稚園では少人数だから、手厚い指導が受けられている。受験など多感な時期に少人数で見てもらえるなら、平沢中に行きたいとも考えている。統合ということになるなら、考えなくてはならないかなと思う。

(意見)

平沢中の近くに住んでいるので、助川小まで子どもの足で40分くらいかかる。30～40分かかるのは遠いと思う。習い事があつたりすると間に合わないこともあり、その時間が無駄に感じる。

体力的なことを考えると歩くことは大事だと思うが、自家用車で送迎すると過保護のように見られる。しかし、家庭の事情はそれぞれなので問題ないと思う。助川小は駐車場がないし、整備されてないので入りにくい。親はサポートしたいと思っている。

(事務局)

通学距離の国の基準があつて、小学校は4km、中学校は6kmとなっている。地域によっては起伏があり一律ではないので、再編を考えるときには考慮する。

日立市の例では、楡形小のお子さんが直線距離で2.8km、道のりでは3km以上を1時間程度歩いている。小学1年生でも歩いている。雨の日などは、自家用車で送迎していると聞いている。

(意見)

自分の時は中学生の足で30～40分くらいかかったが、1人で通学するようなことはなかった。遠くてもいいが、部活で遅くなつたりすると、今は1人になってしまうことも多く、不審者など心配が多い。時間や距離は長くてもいいが、何人かで帰ってこられる状況が少なくなつてきている。女の子は1人なることが心配。

もちろん、クラス数は多い方がいいと思う。

（教育長）

先日、子ども議会を開催したが、通学路が暗い、昼間でも人がいるところを通学路に設定してほしいという質問(*)があった。子どもにとっては切実なこと。どのようにして安全を確保するか、大人が知恵を出さなければならない。（*）は、巻末に記載しています。）

（質問）

10年以内に完了するのか、10年後に始まるのか。

（事務局）

リーフレットにあるように、まず、全体像をお示しする。例えば、平沢中をどうするか、助川小がどうなるかということをお示しする。その中で、まずは10年間に取り組んでいく順番などを明らかにしていく。

（教育長）

20年後を見据えて10年の間に取り組む形を示す。個別の学校について触れるか、地域の中での形を示すか、どのような形であらわすことができるかも検討していく。案の段階で、皆さんにお示しする。

（質問）

決まってから統合されるまでの期間はどのくらいか。平沢中が無くなってしまえば、子どもが通いやすいように引越しも考える。まだ子どもが小さいから、早く分かればいい。急に言われても身動きが取れない。

（事務局）

見通しが持てないと不安だという声は多く寄せられている。できるだけ早くお示ししたい。

計画ができて一斉に取りかかることはできないので、順番に行うことになる。一般的には5年程度かかるといわれている。校舎の増改築に3年程度、学校間の調整や準備期間に2年程度かかる。子どもたちに精神的な負担が無いように、学校間の交流などの準備期間はしっかり設けたい。

（質問）

助川小はエアコンがない。設置してもらえないか。

（教育長）

家にエアコンがあるし、子どもの環境が以前とは変化している。校舎の建て替えに伴ってエアコンを設置している。現在学校にいる子どもたちの環境改善も取り組まなければならない。今年は間に合わないが、エアコン設置は検討している。

（意見）

教室に扇風機があっても、熱風しか来ない。

（教育長）

子どもの命を守れるように取り組んでいく。

(質問)

目指す学校規模を下回ると、必ず統合していく方針なのか。

(事務局)

数だけでまとめられれば簡単だが、先ほどから出ているように、再編していくにはいろいろな問題がある。それらをクリアし、この規模になればいいということで、目指す学校規模としている。

(意見)

統合というよりは(学校を)残す、学級数を増やすことを目指しているのか。減っていくのは目に見えているが、減らさない努力も必要だと思う。

平沢中も人数が減っていて、この規模も下回っているので、無くなってしまうと危機感を持っているが、この地域の人たちは平沢中を残してほしいと思っている。平沢学区から助川中に行ってしまう人もいる。なぜかといえば、部活が少ないから、友達が助川小から助川中に行くからといった理由で。平沢中学区から助川中に行かないようにする努力、アピールが必要だと思う。物理的なことは仕方がないが、確かにプレハブの校舎は魅力がない。しかし、平沢中は成績が良いとか、平沢中でしかできない部活動とか、中身を充実させてブランド化し、人を集める工夫をしてほしい。小さいうちから平沢中になじめるようなイベントや交流があってもいいのではないかと思う。

(質問)

平沢中の生徒数は減っているのか。周囲に家が建ち始めているので増えないのか。

(事務局)

人口減少のグラフは市全体のもの。地域ごとには増減がある。今後、住宅などが増える要素がある地区、その要素がない地区などの情報も、再編の検討には必要だと考えている。開発行為の確認など、行政内部での情報交換を行い、調整しながら検討している。

(質問)

市民会館の周囲にもマンションが建ち、子どもが増えているのではないかと思うが、それでも中小路小が無くなるといううわさを聞いている。

(事務局)

マンションが建っても子育て世帯がどの程度住んでいるかは分からないし、高齢者の方が多いということも聞いている。

(質問)

日立市は学区の縛りがないと聞いている。全国的にも行きたい学校に行けると聞いている。

(事務局)

全国的にも学区制を敷いていない方がまれである。日立市も学区制を敷いている。住んでいる所で学校が決まっている。

中里小・中学校では、近隣校が離れていて再編が難しいということもあって、小規模特認校制度を使って市の全域を学区としている。日立駅からスクールバスを出しているが、そこまでは保護者が送迎している。

登下校に合う路線バスの運行がないので、専用のスクールバスを使っている。

(意見)

今の人口では、学校数が多いと思う。

友人に中里の卒業生がいるが、今でも仲が良い。学級数が少ないから悪いという印象はない。そのような環境もいいなと思う。部活動のことを考えるとかわいそうだと思う。

(質問)

仲町小の耐震性に問題はないのか。

(教育長)

耐震補強しているので安全。

(意見)

校舎の使っていない部分を高齢者のデイサービスなどにすれば高齢者と子どもの交流ができる。学校は避難所にもなっているので、いざというとき使いやすいと思う。不審者などの問題はあるが、開かれた集える場所にすればいいのではないか。コミュニティ活動の場とか。(活動の場は) コミュニティセンターだけでなくてもよい。

(質問)

市内に事例はないのか。

(事務局)

大みか小の敷地に大みか交流センターがある。

(意見)

全国的には、保育施設などを併設している例などもある。市内でも、高齢者施設と保育所を併設しているところはある。

(事務局)

公共施設は市民の財産でもある。ただ壊してしまうのではなく、有効に活用できればいい。全国の事例などを含めて検討したい。

(*)平成30年8月4日に開催された日立市子ども議会において、平沢中学校2年生から「小中学校の通学路の安全性」について質問がありました。

通学路には、人気がなく暗い道が何箇所もある。小学生の通学路になっている所もあり、1人だと怖いと感じるときもある。通学路上には神社があり、不審者が目撃されたこともある。近くに川もあり、大声を出しても聞こえない。通学路など暗い道にある古い電灯のライトをLEDに替え、見回りに来ていただくなど、もっと安全に配慮することが必要だ。小中学生がより安心して通学できるように通学路の安全対策についての質問でした。

この質問に対し、梶山副市長は次のように答弁しました。(要旨)

「市内にある蛍光灯タイプの外灯を、LEDタイプのものへの切替えを進めており、おおむね3年以内にすべてを切り替える。それぞれの通学路の不安箇所の点検を行い、学校が把握している危険箇所の情報を検証し、外灯を設置する場所の決定を速やかに進めたい。

また、日立市では、防犯サポーターや自警団、青色防犯パトロール隊が組織され、延べ約4,000人の

方々が、各地で、徒歩や青パトで巡回していただいているお陰で、市の犯罪発生率は毎年減少しており、県内でも突出して低い水準にあり、安全で安心して住むことのできるまちであると思っている。今後も、更に学校や地域の方々と連携を密にし、通学路の重点的な見回りを強化し、皆さんが安心して登下校できるようにしていきたい。」

河原子中学校2年生からは、「安心できる通学路」について質問がありました。

不審者に声を掛けられ、車に乗せられそうになったという事件があり、不安になった。「110番の家」の看板が設置してあっても、昼間は営業していない店舗だったりして本当に安全なのか心配だ。「110番の家」の協力者を見直して、人がいる店舗等に協力を得て看板を設置してほしいという質問でした。

この質問に対し、中山教育長は次のように答弁しました。(要旨)

「児童生徒の皆さんが被害に遭わないように、安心できる通学路の対策は、今後ますます重要となっている。学校、保護者、地域の方々、警察などの関係機関と協力し、通学路の安全確保に努めており、「子どもを守る110番の家」も、その対策の一つとして行っている。児童生徒の緊急避難場所として、主に通学路に面した一般家庭や商店・会社などに協力をいただいているが、時間帯によっては在宅されていない場合もあると思う。提案のあったように「常に人がいる店舗など」に少しでも多く協力していただくことが、児童生徒の皆さんの安心・安全につながるものと考えている。」

以上

※ 始めと終わりのあいさつと資料の説明は、記録を省略します。